

日本医療大

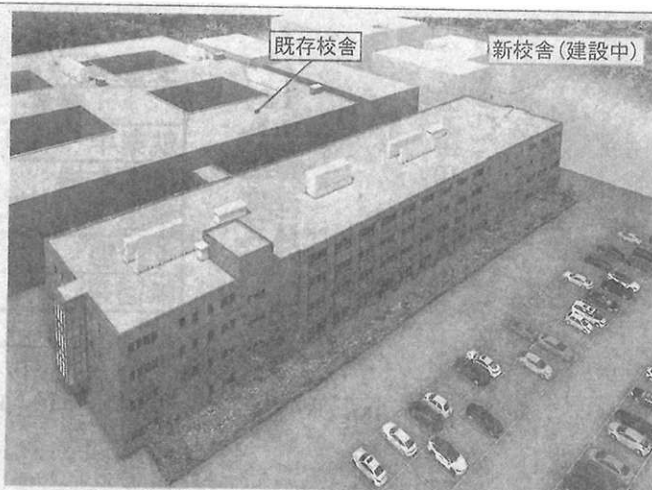
26年4月に新学部開設へ

医療DXで役割担う人材教育

日本医療大(島本和明総長)は、2026年4月にヒューマンデザイン学部医療DXマネジメント学科と同学部共生社会デザイン学科を開設する予定だ。医療DXマネジメント学科では、AIを図っていく。

医療DXは、まず医療を実現して、未来の医療情報の「見える化」から始め、データに基づいてサービスの効率化と質の向上を進めることで、国民の健康をさらに促進し、切れ目のない医療提供や医療機関の業務改革

医療DXは、まず医療を実現して、未来の医療情報の「見える化」から始め、データに基づいてサービスの効率化と質の向上を進めることで、国民の健康をさらに促進し、切れ目のない医療提供や医療機関の業務改革



新学部のための新棟を建設する

用による医療提供体制構築に向け整備を進めている。電子カルテやマイナンバーカードはまさに普及の途上であるが、それらのシステムにスタッフが手入力でデータを打ち込んでいるのが現状だ。「デジタル化は進んでいるが、現場への還元には結びついていない。各病院の実情に合わせたゴールを設定し、それに合わせて必要なシステムを用意し、活用していける人材が求められている」と話すのは、笹森大輔氏。札幌白石記念病院で診療放射線技師として活躍したのち、MBAを取得し、現在は経営企画部長を務め、同病院で自作コマンドセンターを開設した。新学科開設でも中心的な役割を担い、教員も務める予定。

笹森氏以外にも、医療ベンチャー企業を立ち上げ、医療情報システムの研究を行っている道情報大の上杉正人教授、標準電子カルテに関する厚生労働省のワーキンググループで活躍している。

また、同大は新学科設置のために、新棟の建設を進めている。クラウド環境など、通信系のインフラを充実させ、学生には1人1台パソコンを持たせる。

各種データの管理だけでなく、それらの統合からグラフィカルな表示、さまざまな現場へのフィードバックなど、実践形式の講義を行う。生成AIの活用や、ニーズに合わせたRPAの作成など、まさに現場で役立つDXの実現につながる技術を学ぶことができる。

「優れたシステムであつても、経営者がそれを理解し、必要とされなければならぬ」と、経営者向けのプレゼンテーション能力を養うプログラムも用意する。

「当学科の卒業生が道内各地の医療機関で活躍し、それが地域医療の課題解決につながっていければ」と笹森氏は期待する。